

2024(令和6)年7月1日 報道発表資料
[本リリース発信元] ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

2024年度 ロームシアター京都自主事業 ラインアップ追加のお知らせ

本年3月に発表しました2024年度のロームシアター京都自主事業ラインアップに加えて、**中川裕貴 新作コンサート「弭(ゆはず)」**と**東京バレエ団「くるみ割り人形」全2幕**の共催事業の開催が決定しましたのでお知らせいたします。是非ご注目いただき、貴媒体にてご紹介いただきますようお願いいたします。

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当: 儀三武、加藤
電話: 075-771-6051 (10:00~17:00) FAX: 075-746-3366

中川裕貴(なかがわゆうき) 新作コンサート「弭(ゆはず)」

京都を中心に活動するチェロ演奏家 中川裕貴による約4年ぶりとなる新作コンサートをロームシアター京都 ノースホールで開催します。

チェロとその楽器から「声」を引き出すための「弓」。そしてそれらを聴くための「耳」をめぐる時間と空間。タイトルは「弭(ゆはず)」。

弓、耳、声、ゆはず、You haze(あなたが霞んでいます)。

音/音楽が在り、それが消えていくことや、静寂(サイレンス)。

それらの出来事に対して、この現代における新たな「かたち」や「言い換え」を「コンサート」という形式から創り出します。

日時: 2024年12月28日(土)、29日(日)時間未定

会場: ロームシアター京都 ノースホール

チケット: 8月20日(火)発売予定

*詳細はロームシアター京都 WEB サイトにて随時更新予定

中川裕貴 Yuki Nakagawa



撮影: 井上 嘉和

1986年生まれ、三重/京都在住の音楽家。チェロを独学で学び、そこから独自の作曲、演奏活動を行う。人間の声に最も近いとも言われる「チェロ」という楽器を使用しながら、同時にチェロを打楽器のように使用する特殊奏法や自作の弓を使用した演奏を行う。音楽以外の表現形式との交流も長く、様々な団体やアーティスト(烏丸ストロークロック、森村泰昌、渡邊尚など)への音楽提供や共同パフォーマンスも継続して行っている。また2022年からは音楽家・日野浩志郎とのDUOプロジェクト「KAKUHAN」がスタートしている。

近年の単独でのコンサート活動として、「ここでひくことについて(2019)」@京都芸術センター、「アウト、セーフ、フレーム(2020)」@ロームシアター京都サウスホール(ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム「KIPPU」)などがある。

同志社大学工学部情報システムデザイン学科卒業。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修了(音楽学)。令和6年度京都市芸術文化特別奨励者。

主催: 中川裕貴

共催: ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

東京バレエ団 「くるみ割り人形」全2幕

日時：2024年12月26日(木) 18:30 開演
会場：ロームシアター京都 メインホール
出演 マーシャ：秋山瑛、くるみ割り王子：宮川新大 ほか
演奏：大阪フィルハーモニー交響楽団
* チケット発売情報等その他詳細は 8月中旬告知予定
* 詳細はロームシアター京都 WEB サイトにて随時更新予定

東京バレエ団



(C) Shoko Matsuhashi

1964年に創設、3年目の1966年にはモスクワ、レニングラードで公演を行い、ソビエト文化省より“チャイコフスキー記念”の名称を贈られた。創立以来一貫して、古典の全幕作品から現代振付家の名作まで幅広いレパートリーを誇る。モーリス・ベジャール(「ザ・カブキ」「M」)、イリ・キリアン(「パーフェクト・コンセプト・ジョン」)、ジョン・ノイマイヤー(「月に寄せる七つの俳句」「時節の色」)ら現代バレエ界を代表する三大振付家によるオリジナル作品を上演。またウラジーミル・ワシーリエフの「ドン・キホーテ」、ナタリア・マカロワの「ラ・バヤデール」、マッツ・エックの「カルメン」、ノイマイヤーの「ロミオとジュリエット」など、当代一流の振付家の作品をその指導により上演している。ことに22ものベジャール作品をレパートリーに持ち、モーリス・ベジャール・バレエ団とは兄弟カンパニーとして認められている。ダニエル・バレンボイム、ズービン・メータなど、巨匠指揮者との共演も果たした。

これまでに日本の舞台芸術史上始まって以来35次786回の海外公演を行い、“日本の生んだ世界のバレエ団”として国内外で高く評価されている。33カ国156都市を巡り、とくにパリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、ボリショイ劇場、マリインスキー劇場などヨーロッパの名だたる歌劇場に数多く出演し絶賛を博した。2019年6月～7月には第34次海外公演としてポーランド-オーストリア-イタリアの3か国5都市で11公演を行った。ことに30年ぶり3度目の出演を果たしたウィーン国立歌劇場では、3日間の公演がすべて立ち見を含む満席となる成功を収めた。2023年7月の第35次海外公演では初となるオーストラリア公演を実施。オーストラリア・バレエ団のシーズンプログラムの一つとして、メルボルンの劇場で11回上演した「ジゼル」は連日満席で、現地メディアから絶賛を浴びた。

2014年8月30日に創立50周年を迎え、ノイマイヤー版「ロミオとジュリエット」、ベジャール「第九交響曲」(モーリス・ベジャール・バレエ団との合同公演)等を初演。2015年8月には斎藤友佳理が芸術監督に就任し、2016年2月にブルメイステル版「白鳥の湖」バレエ団初演を実現。2019年には古典全幕「海賊」バレエ団初演、勅使川原三郎による新作「雲のなごり」初演、「くるみ割り人形」全幕の新制作等のプロジェクトを成功させた。2020年には作家・三島由紀夫を題材としたベジャール振付「M」を10年ぶりに上演。映像配信にも意欲的に取り組んだ。2021年には金森稜振付「かぐや姫」第1幕を世界初演、完結まで3年に亘るプロジェクトをスタートさせる一方、2011年東日本大震災後に開催した〈HOPE JAPAN〉ツアーを10年ぶりに始動し、コロナ禍のもとでバレエを通じて日本全国にエールを送った。2022年3月には念願のクランコ版「ロミオとジュリエット」全幕初演を実現。前年に続く〈HOPE JAPAN〉ツアーも実施した。2022年10月に上演した「ラ・バヤデール」は令和4年度(第77回)文化庁芸術祭の関東参加の部において大賞を受賞した。2023年10月には「かぐや姫」全3幕の世界初演、11月には「眠れる森の美女」新制作の初演を立て続けに実現した。東京文化会館での〈上野の森バレエホリデー〉、めぐろパーシモンホールでの〈めぐろバレエ祭り〉など、地域に根ざした活動にも力を入れ、幅広い観客に親しまれるバレエ作品の上演、普及活動を行っている。

2024年8月、東京バレエ団は創立60周年を迎える。

主催：一般社団法人日本バレエ団連盟、公益財団法人日本舞台芸術振興会
共催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

各公演の詳細は決定次第随時劇場 WEB サイトにてご案内いたします。

ロームシアター京都 2024年度自主事業ラインアップ WEB ページは [こちら](#)